

1. 緑や水などうるおいのある川崎区をつくる

「緑や水などうるおいのある川崎区をつくる」では、4つの具体的方針を提案をします。

● 多摩川の自然をもっと市民生活にとけ込ませる……………

▼多摩川を川から海への行楽の場として整備する

そのためには…

- ・サイクリングロードを浮島町公園までつなげ、高津区や多摩区にある多摩川のようにジョギングや散歩ができるように整備する。
- ・多摩川河川敷に桜や梅を植えたり、花畑として市民に開放する。
- ・多摩川河川敷の整備の際には、緊急用道路も合わせて整備し、防災性を高める。
- ・企業に協力を要請し、市民が気軽に多摩川へアクセスできるルートを整備する。

▼市街地内にうるおいのある親水空間をつくる

そのためには…

- ・多摩川の雰囲気を感じ取ることができるように、既存の公園内に水とふれあえる場所をつくり、トンボ池など生態系のある水辺空間を整備する。

● 富士見公園などの公園を充実させる……………

そのためには…

- ・小田公園、桜川公園は球場を多目的公園に変更し、緑の多い憩いの場として整備する
- ・市民健康の森づくりを実現する
- ・富士見公園を改造すると共に、それに合わせて周辺の整備をおこなう
- ・大師地区内の公園を再整備する。
- ・身近な街区公園では地域特性を活かして整備する。
- ・八丁畷駅前の三角地に公園をつくる。
- ・ホームレス対策を考える。
- ・自転車の通り抜けなどマナーを守らせる施設整備の工夫を検討する。

● 緑と水のネットワークをみんなでつくる

▼実際の緑や水をつなぐこと

そのためには…

- ・川崎区には面積は小さいが街区公園は分散して整備されています。これら公園や小学校などをネットワークする散策路を整備する。
- ・NKKまでの貨物線跡地、浜町三丁目水門から産業道路までの桜川通り桜本一丁目付近や京急大師線地下化に伴う跡地を緑道として整備する。
- ・マンション、集合住宅の屋上を緑化する。

▼住民が緑の計画、植栽、管理に参加できるようなソフトの仕組みづくり

そのためには…

- ・住民が緑の開発に参加できるようにする。
- ・市民健康の森づくりを実現する。
- ・ボランティアが公園の掃除をするなど、公園の愛護会のようなものをつくる
- ・毎年の卒業・入学記念・親子植樹祭などをおこない樹木を増やす。

● 旧東海道や川崎宿の史跡を活かす

▼旧東海道や川崎宿の史跡を活かす

そのためには…

- ・旧東海道や川崎宿の史跡と多摩川の自然、川崎大師さらには商店街と連携し、歴史的な文化をアピールすることによってまちを活性化する。
- ・六郷の渡しでは、渡し船を復活する。
- ・回遊性のある遊歩道で史跡、休憩所等をつなぎ、案内板を整備する。
- ・観光パンフレット、紙芝居風のカードを作成したり、ガイドボランティアを検討する。

▼川崎区に残された歴史の面影を残す

そのためには…

- ・昔からある大木、洋館など川崎区に残された貴重な歴史的財産を残し、まちづくりに活用する。(市は市民の保存運動を尊重して欲しい)
- ・ものづくりのまちをアピールするために、産業の歴史会館をつくる。

●コラム：中間とりまとめに対するワークショップや中間報告会での意見

- ・富士見球場跡地に多目的ホールを造って欲しい。
- ・川崎駅からの大師さま参拝構造はどうでしょうか。
- ・河川敷の整備と土手に桜並木を作り大師へ繋がるイメージ。

2. 地域間の連携を強くする

「地域間の連携をつよくする」では、3つの具体的方針を提案します。

● 地域間相互を行き来しやすくする（南北方向）……………

▼地域間の横のつながりや臨海部へのアクセスを改善する。

そのためには…

- ・ 富士見鶴見駅線の完成を推進し、鶴見総持寺と川崎大師を結ぶデートコースとする。
このことにより、田島地区と大師地区との交流が活発となる。また、密集市街地内の交通量の減少、防災上の延焼の防止、交通利便性の向上から周辺施設に人が集まるまちができる。
- ・ 池田浅田線の道路拡幅工事を早期に完成する。
- ・ 塩浜陸橋の渋滞を解消する。

▼川崎区の幹線道路は、東京と横浜を結ぶ重要な道路で交通量が多いが、区民にとっては安全で快適な幹線道路とすべきである。

そのためには…

- ・ 川崎縦貫道路は周辺住民の生活に配慮し、大気汚染の削減など環境保全対策を徹底する。また、地下化に合わせ、大型シェルターを設置する。
- ・ 産業道路、旧市電通り、新川通り、市役所前通り、池上新田交差点部の渋滞対策を検討する。また、道路改良事業（国県道改良）として交差点を改良したり、東海道線の踏切の高架化や多摩川にかかる橋を整備する。
- ・ 交通量増加、交通渋滞による騒音等の環境悪化への対策（特に産業道路）や緊急道路の整備も一緒に行う。
- ・ 京急八丁畠駅の踏切部分の整備を進める。

●コラム：中間とりまとめに対するワークショップや中間報告会での意見

- ・ 交通の利便性を高めたい。東西の交通整備。
- ・ 高速道はあまりつくらない。車を減らさなければならない。路面電車の復活をする。
- ・ 富士見鶴見駅線の整備とまちの交流。
- ・ 交通量が増えることから排気ガス等の公害問題がある（特に産業道路）。
- ・ 湾岸道路の整備。
- ・ 東京の道路はできるまで30年40年かかるが、川崎ではどうなるのか？どのくらいの未来を見て考えるのか？
- ・ 道路をつくるにはお金の問題もある（10年～20年では無理か？）
- ・ 貸し自転車サービスの実施
- ・ 川崎縦貫道の建設工事はこれから住宅地にはいるために、大気汚染を削減するための対策を立てるべきです。住宅地部分は地下構造や大型シェルター化などの措置を。後で再生することは経営性からも問題がある。

● 公共交通を中心とした交通体系づくり

▼ 便利な鉄道網を整備する

そのためには…

- ・ 東海道本線貨物線・神奈川臨海鉄道の旅客化と駅の設置を検討する。
- ・ 川崎駅と浜川崎線の臨海部を結ぶ新交通システムを検討する。(モノレール等)
- ・ 車の規制と路面電車の復活を検討する。

▼ 便利なバス体系とする

そのためには…

- ・ 大師地区と小田地区を結ぶ南北方向の連絡ができるバス路線を開設する。
- ・ 渋滞区間のバス専用レーンの設置や小田栄廻りバスの増便とバス道路の一方通行を双方通行への変更する。
- ・ 大師地区の循環バス、市営バスと臨港バスの重複経路の検討する。
- ・ バスについては、効率的な運用など、あまりお金をかけなくてもできること、例えば、細かいバスルートの拡充など比較的やりやすいことから取り組む。
- ・ 渋滞区間にはバス専用レーンを設置する。

● 歩行者、自転車、自動車が共存する道路づくり

そのためには…

- ・ 狭い道路で車の通行量が多いところは、歩行者が安全に歩ける道路とする。
- ・ 歩道が確保されている道路では電線の地下埋設を推進し、歩道空間の有効活用や景観に配慮した道路づくりを推進する。
- ・ 歩道の段差やでこぼこを解消し、車椅子やベビーカーを押しながらでも安心して歩ける道づくりを進める。
- ・ 自転車専用道路の整備や街路樹を植える。(街路樹は邪魔になる時もある)
- ・ 駅前に止めてある自転車は歩道を狭めるとともに、景観上見苦しいので、駅前に駐輪場を整備する。
- ・ 街路樹やグリーンベルトにより自転車通勤道路を整備し、市内の車制限をする。
- ・ 交通渋滞の解消のため、駐車場を整備する。また、場所によっては、パーキングメーターの設置など道路の特性に応じた整備をおこなう。
- ・ 歩道にはわかりやすいデザインされた案内標識を設置したり、カラー舗装により公共施設への方向を示す。

3. 川崎駅周辺や身近な生活の場を充実させる

「川崎駅周辺や身近な生活の場を充実させる」では、3つの具体的方針を提案します。

● 災害に強く、魅力ある川崎駅周辺地区をつくる ……………

▼歩行者にとって快適な川崎駅周辺地区をつくる

そのためには…

- ・自転車通勤道路の整備と市内の車制限により歩行者に安全な都心部をつくる。
- ・駅前には、現在自動車中心となっているが、歩行者や車椅子利用者が平面部分横断できるようにする。
- ・車両の乗り入れ規制やバスの発着場の移設により川崎駅前のバスターミナル部分を人にやさしい緑と歩行者の空間とする。
- ・銀柳街、国道15号、新川通り、市役所通りなどせせらぎのある都心部をつくる。

▼外部から川崎区へ訪れる人にとっても生活している私たちにとっても魅力ある川崎駅周辺地区をつくる

そのためには…

- ・川崎駅北口地区の市街地再開発事業を推進し、暮らしに役立つ施設を導入するとともに、大きな損害を受けにくい都心づくりを進める。
- ・煩雑なイメージを与える川崎駅東口前周辺の自転車を一掃するため、駐輪場を整備する。
- ・自転車がなくなった所へ、プランター等で花を植えたり、フリーマーケットを開催したり、テーブルやイスを置いて市民が休息のできる場をつくる。このことにより、ホームレスの人達も居られなくなる。

● 地域資源（地域の大切なもの）を活かした 大師駅周辺地区をつくる

そのためには…

- ・貸し自転車の設置やおしゃれなレトロバスの運行し、観光しやすくする。
- ・人が集まる商店街づくりとして市民交流の場をつくったり、駐車場、駐輪場の設置により、買い物しやすい商店街づくりを進める。
- ・住民の生活や商店街の振興につながる環境づくりとして多摩川河川敷を整備し、川崎大師の門前町と合わせて回遊性のあるまちを形成し人の流れを活性化する。
- ・多摩川リバーサイド地区の再開発や企業のリストラ遊休地などにおいて公営・公共住宅を整備し、住民を増やす。
- ・地域に根ざした商店街づくりとして東海道の史跡の活用や舗装材料を高質にするとともに、大師らしい街並み景観づくりを進める。
- ・大師線地下化に伴う緑道を整備する。

● 人と人がふれあえる活気にみちた身近な商店街づくり

そのためには…

- ・多様性と拠点性を意識した地域の中心・人が集まる商店街づくりを進める。
- ・駐車場、駐輪場の設置により買い物しやすい商店街づくりを進める。
- ・段差がなく、歩行者空間が豊かな買い物客にとって安全な商店街づくりを進める。
- ・商店街の中に市民交流の場をつくり、地区の特性を生かした街並みの景観づくりを進める。
- ・行政の仕事と商店の仕事を明確化し、行政の事業効果をわかりやすく住民に説明する。
- ・商店街のあり方が変わってきており、商店街側（商店主）もお客を待っているだけでなく、消費者や時代のニーズにあった商店街づくりをすすめる。
- ・臨海鉄道の旅客化、京急大師線地下化にともなう駅前開発は、企業・市・市民と共に考える。

●コラム：中間とりまとめに対するワークショップや中間報告会での意見

- ・川崎大師は、初詣で昔は1位だったが、今は取り巻く環境が悪い。
- ・若いお母さんが来やすくなる、子供を安心して遊ばせられる場所づくり
- ・川崎市の玄関口であるＪＲ、京急両川崎駅周辺の環境整備を検討する必要がある。
①平面部分を整備し、回遊性の検討。 ②ホームレス問題の検討。
- ・空き店舗利用については将来像としてはどうか。